

CASBEE®-ウェルネスオフィス | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-WO_2021(v1.0)

1-1 建物概要				1-2 評価パターン	
建物名称	朝日工業社つくば技術研究所	階数	地上2F	評価対象	パターン3
建設地	茨城県つくば市学園の森二丁目12番6	構造	RC造		
用途地域	準工業地域、防火地域・指定なし	平均居住人員	20人		
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)		
建物用途	その他(研究所)	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価		
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年4月16日		
敷地面積	9,300 m ²	作成者	小川 香織		
建築面積	2,877 m ²	確認日	2025年7月7日		
延床面積	3,529 m ²	確認者	高須康有		

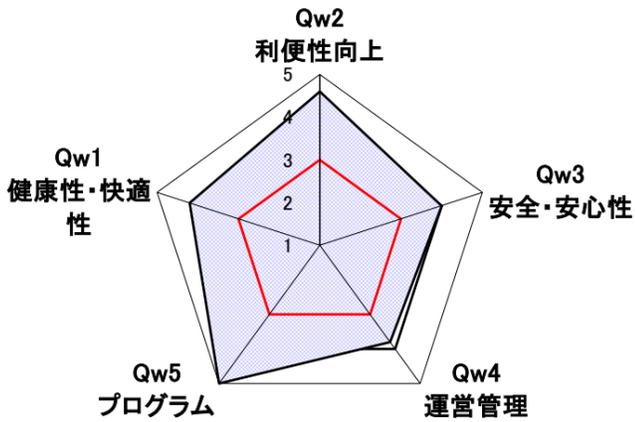
2-1 総合評価

Rank: S 79.9 / 100



S ランク: ★★★★★ > 75
 A ランク: ★★★★☆ ≧ 65
 B+ランク: ★★★☆☆ ≧ 50
 B-ランク: ★★☆☆☆ ≧ 40
 C ランク: ★☆☆☆☆ < 40

2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

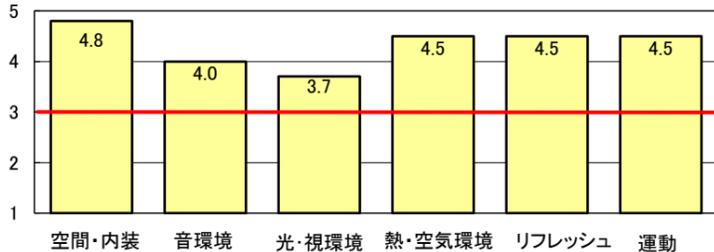


2-3 中項目の評価(バーチャート)

基本性能

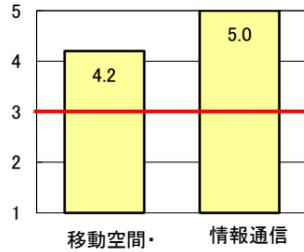
Qw1 健康性・快適性

Score: 4.2



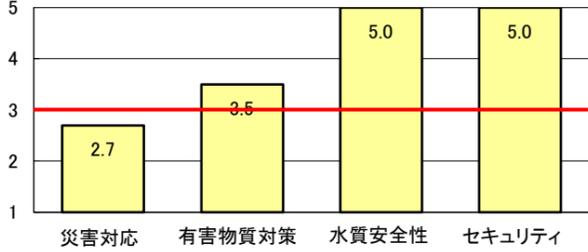
Qw2 利便性向上

Score: 4.6



Qw3 安全・安心性

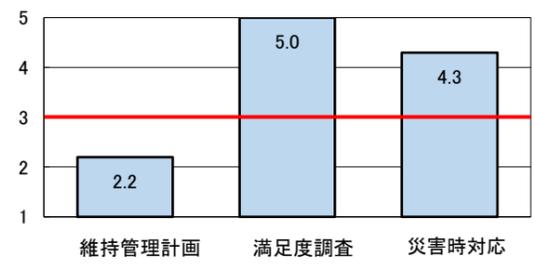
Score: 4.0



運用管理

Qw4 運営管理

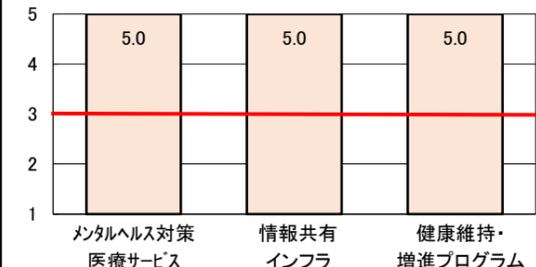
Score: 3.8



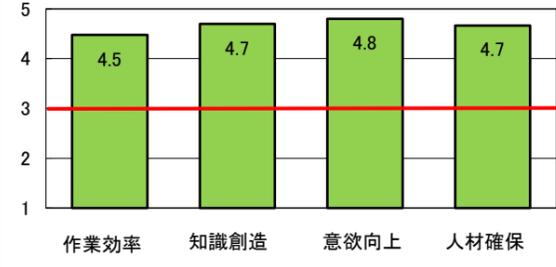
プログラム

Qw5 プログラム

Score: 5.0



参考: 知的生産性の視点に基づいた評価



3 設計上の配慮事項

総合
 設備が、レイアウト変更に対応した区画に分けて運用ができる。
 入居者に対して、定期的実施し、それを以降の改善策に活用している

Qw1 健康性・快適性 知的生産性を高めるという観点から働き方に即したレイアウト計画・整備がされている。 執務室内に吹き抜け階段を採用	Qw2 利便性向上 会話を誘発するような動線上の工夫や会話のための空間が考慮されている。	Qw3 安全・安心性 建築基準法に定められた耐震性の25%増の耐震性を有する
Qw4 運営管理 入居者に対して、定期的実施し、それを以降の改善策に活用している□	Qw5 プログラム 社内に運動を促進するクラブ活動がある。	その他 特になし。

CASBEE-ウェルネスオフィス2021年版
朝日工業つくば技術研究所

バージョン CASBEE-WO_2021(v1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート			
配慮項目		環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価			4.1
Qw1 健康性・快適性			4.2
1 空間・内装			4.8
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ	間仕切りが無く開放的な研究員室スペースであり	5.0
	1.1.2 荷重のゆとり		3.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性	設備が、レイアウト変更に対応した区画に分けて運用ができる。	5.0
1.2 知的生産性を高めるワークプレイス		ワーカーの意見を反映できること。	5.0
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画	インテリアパースによる内装計画の事前検証を実施している。	5.0
	1.3.2 共用部の内装計画	共用部に空間用途に応じた内装が実現されている。	5.0
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性	かつワーカーが健康に配慮されたオフィス什器を自由に選択できる。	5.0
	1.4.2 OA機器等の充実度	個人用の電話、内線電話が携帯化されている	5.0
1.5 広さ		ワーカーの働き方の多様性を考慮したオフィスである。	5.0
1.6 外観デザイン		植栽により、良好な景観を形成している。	5.0
2 音環境			4.0
2.1 室内騒音レベル			3.0
2.2 吸音		吸音材を使用している。また、サイレントスペースを設置している。	5.0
3 光・視環境			3.7
3.1 自然光の導入		20% ≤ [開口率]	5.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策		4.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策		3.0
3.3 照度			3.0
4 熱・空気環境			4.5
4.1 空調方式及び個別制御性		空調方式及び個別制御性に対して、充実した取組みが行われている	5.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温	屋外環境が想定設計条件を超えるような日においても、冬期22℃、夏期26℃程度の室内環境が提供できる	5.0
	4.2.2 外皮性能		2.0
4.3 湿度制御		加湿機能・除湿機能を有し、年間を通し45～55%。	5.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量	居室は35m ³ /h人以上	5.0
	4.4.2 自然換気性能	自然換気窓もしくは換気口の開閉が、適切に運用できる取組みがなされている	5.0
5 リフレッシュ			4.5
5.1 オフィスからの眺望		事務室の天井高2.9m以上	5.0
5.2 室内の植栽・自然とのつながり		執務空間で植栽等の自然を全面的に感じることができる。	5.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり		取り組んでいる項目数が3つ以上ある。	5.0
5.4 トイレの充足性・機能性		多様な利用者を意識した設計となっている。	5.0
5.5 給排水設備の設置自由度		執務室内に後からキッチン、パントリーなどの水廻り空間を、一部の範囲設置が可能	4.0
5.6 リフレッシュスペース		複数タイプのリフレッシュ用のスペースが設置されている。	5.0
5.7 食事のための空間		建物内に快適かつ簡易な調理も可能な食事や軽食を取れるスペース	4.0
5.8 分煙対応、禁煙対応			3.0
6 運動			4.5
6.1 運動促進・支援機能		更衣及び用具収納等の運動を促進・支援する装備がある。	4.0
6.2 階段の位置・アクセス表示		執務室内に吹き抜け階段を採用	5.0
Qw2 利便性向上			4.6
1 移動空間・コミュニケーション			4.2
1.1 動線における出会いの場の創出		会話を誘発するような動線上の工夫や会話のための空間が考慮されている	5.0
1.2 EV利用の快適性			4.0
1.3 バリアフリー法への対応			3.0
1.4 打ち合わせスペース		打ち合わせ内容に応じた空間の選択が可能である。	5.0
2 情報通信			5.0
2.1 高度情報通信インフラ		OA機器用コンセント容量が60VA/m ²	5.0

Qw3 安全・安心性			4.0
1 災害対応			2.7
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	建築基準法に定められた耐震性の25%増の耐震性を有する	4.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能		3.0
	1.1.3 設備の信頼性		3.0
1.2 災害時エネルギー供給			1.0
2 有害物質対策			3.5
2.1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用			3.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応		-
	2.3.3 土壌汚染等対応		-
3 水質安全性			5.0
3.1 水質安全性		水質安全性対策を全て満たしている。または、各階にミネラルウォーターの給水機を設置し、全員が利用できるようにしている。	5.0
4 セキュリティ			5.0
4.1 セキュリティ設備		監視カメラの設置	5.0
Qw4 運営管理			3.8
1 維持管理計画			2.2
1.1 維持管理に配慮した設計			3.0
1.2 維持管理用機能の確保		評価する取組みにおいて該当する項目数が5つ	4.0
1.3 維持保全計画			1.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書		-
	1.4.2 維持管理レベル		-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性			1.0
2 満足度調査			5.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		入居者に対して、定期的の実施し、それを以降の改善策に活用している。	5.0
3 災害時対応			4.3
3.1 BCPの有無			3.0
3.2 消防訓練の実施		消防訓練は毎年全社防災訓練の際に、避難訓練、消火訓練も同時に実施。	5.0
3.3 AEDの設置		AEDは建物内へ設置している。	5.0
Qw5 プログラム			5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		健康診断・ストレスチェックは毎年行っている。	5.0
2 情報共有インフラ		データや資料が社内外で安全に共有できる取組み。	5.0
3 健康維持・増進プログラム		社内に運動を促進するクラブ活動がある。	5.0